

福井県議会議員 しみず とも のぶ

清水智信 NEWS-01

清水智信事務所:〒910-0837 福井市高柳3丁目2801
TEL.0776-52-2630 FAX.0776-52-2021 E-mail:tomonobu0628@movie.ocn.ne.jp



誇れる郷土に情熱を

絆、活力、郷土愛

若い世代が政治や地元に興味を持つきっかけをつくりたい。若い世代の声を県政に反映させていきたい。

六月県議会(七月日)
一般質問

若者が夢や希望を持てる福井について

私は、福井県の皆様のおかげでボクシングの世界チャンピオンという夢を叶えることが出来ました。私は、ふるさとの福井が大好きで誇りを持っていきます。若い世代の皆さんにも、もっと福井に興味、誇りを持ってもらいたい。この思いから、「若い世代が政治や地元に興味を持つきっかけを作りたい。若い人の声を県政に反映させていきたい」と考えるようになり、県議会議員選挙に立候補し、当選させていただきました。

そこで、初めての一般質問、第一ラウンドは「若者が夢や希望を持てる福井」について、伺います。
私は、福井市内の高校を卒業し進学で上京するまで、まだまだ活気があった福井の街が大好きでした。高校生の頃、学校が終わると福井駅前をよく遊び、当時はブリックラが流行っており生徒たちで賑わっていました。その楽しかった学生時代の思い出こそが、いずれ福井に帰ってきたいという、今の郷土愛につながっている気がします。しかし、上京後、東京から帰る度に福井の街が寂しく見えるようになり、悲しい気持ちになったことを覚えています。世界チャンピオンになり福井で取材を受けた時、ある記者の方から福井の

若者が都会に流出し、地元に戻ってくる若者がとても減っていることを聞きました。福井の街が少しずつ寂しくなっている理由がそこにあると思います。一度県外に出てスキルを磨き、経験を積み、目標に向かって頑張ることは素晴らしいことですが、しかし、目標を達成した後は、その能力を福井に持ち帰り、福井で惜しみなく発揮してほしい。若者に「発揮したい」と思ってもらえるような、そして発揮できる場所がある福井にしていかなければならないと思っております。そのためにも、若者が夢や希望、誇りを持てる福井、必ず帰りたいくなるような福井をつくっていききたいと思っております。

地方創生元年と言われる今年、各地の生き残りをかけたPR合戦のゴングが打ち鳴らされました。魅力度



初当選後、6月県議会定例会で初めての一般質問

ランキング45位の福井県は、もっとアイデアを出し合い、メディアをうまく活用して次々と発信し、PR下手な知名度が低いというイメージから脱却していかなければいけないと思っております。

問 ます、福井の知名度向上について、知事に、これまでの12年間の取組成

果や現状認識について、伺います。

答 西川知事

この12年間、元氣な福井県作りを基本にして、県政を運営してきた結果、子供の学力・体力や出生率、就業率など全国最良の水準となっております。今日、福井県は県民の幸福度あるいは子供の幸福度の二重の日本一という高い評価を得ています。

教育や産業などを題材とした書物や雑誌が数多く出版され、テレビなどでも数多く取り上げられるようになってきている他、恐竜王国福井を本県のトップブランドとして全国に発信し、本県の知名度向上や誘客にもつなげてきているところであります。ましてその成果が出ております。

平成30年には福井国体、34年には北陸新幹線の金沢・敦賀間が開業し、全国的に福井が注目される絶好のチャンスが目前に迫っています。

問 福井国体や敦賀開業のビッグチャンスに向け、今後、どのような戦略で福井をPRし認知度を高めたいのか、知事に伺います。

答 西川知事

今後、特に3年後は、国体の年にもあたるわけですが、近代日本の幕開けに活躍した多くの偉人たちが福井から輩出しており、テレビドラマの誘致など、また自然環境の面では、世界標準である年縞や、福井の豊かな自然生活の中で育まれた食の文化、日本遺産の認定を受けた若狭地域のさまざまな歴史環境など、福井が誇る本物の魅力をさまざま

まな手段でわかりやすく国内外に発信し、福井の知名度、好感度を高めてまいりたいと思っております。

さて、福井のPRにあたっては、若者や民間から意見やアイデアを集めて、若者の感性を活かした新たな取り組みが必要ではないかと思っております。

観光のPRではありませんが、大阪市城東区役所では、若者の投票率を上げるため、29歳以下の市の職員によるチーム「若者の投票率を上げるため」にはU-29会議を設けています。4月の統一地方選挙では、若者に印象的に訴えかけるため、若い世代に人気のアニメのセリフを使ったり、ポスターなど、20、30歳代をターゲットにした啓発が行われました。私は、区役所を訪れ活動や成果についてお聞きしました。投票率への影響分析はこれからとのことですが、市民から行政の堅いイメージが変わったとの意見が多く寄せられ若手職員からは仕事へのモチベーションが上がったとお聞きしました。

これまでの行政の堅いイメージではなく、若者のアイデアを活かして、どんどん新たなことにチャレンジしていかなければならないと思っております。

問 県内や県外へ出た福井の若者のアイデアを聞き、若い世代の感性を福井の知名度を高めるPRに取り入れていくべきと考えますが、知事の所見を伺います。

答 西川知事

福井県では若者チャレンジクラブが今年オープンするポータルサイトに地域を自慢するコーナーを設け、若者の視点で福井の自然環境や景色、食材などをPRしてもらうこととしております。また県外に出られた若者については、首都圏在住の本県出身の自主活動グループがフェイスブックを使い、本県の観光地を紹介するなど、首都圏から福井を応援する動きも出始めております。

さらに、国際的にはA-LT外国人指導助手であります。福井に来ておられる外国人や園芸カレッジの研修生、JCなど、さまざまな方面で頑張っている若い人たちにも福井の魅力を発信していただくような議論をしており、これが行われると思っております。ふるさと福井に誇りを持つ若い人たちを増やすとともに、知名度向上にもつなげてまいりたいと思っております。

問 また、県庁においても若い職員の声の聞いたり、勉強会を開くだけではなく、若い職員によるプロジェクトチームを作り、若い感性に任せ福井のPRを担当させてはどうかと考えますが、所見を伺います。

答 総務部長

これから行われます移住・定住や、結婚支援、若者女性の活躍推進など若手職員の感性や柔軟な発想が地方創生の鍵を握るといっても過言ではありません。本年5月に設置いたしました、ふるさと県民局には、若手のグループリーダーを多数起用したところであり、福井から全国に施策を発信していきたいと考えております。

次に、福井の魅力を福井の若者や子どもたちに伝えることについて、伺います。

勤労世帯2人以上の家計調査結果を見ると、東京都区部の世帯収入は月59万円、支出は48万円。福井市の収入は、57万円と東京より低いですが、支出も40万円と低く、収入と支出の差額を比べると福井の方が6万円多くなっています。福井の支出が少ない主な理由は、住居費や教育費が安いことが挙げられます。福井は共働きが当たり前のようになっていますが、この共働きができる環境、三世大家族が仲良く助け合っている生活できる環境こそが福井の一番のすばらしさ、そして、一番幸せなことだと思っております。都会では、多くが県外出身者ですので、結婚して子どもを産んでも助けて

スポーツ選手のセカンドキャリアについて

くれる人はいません。共働きができず、1人の収入で高い家賃を支払っていかねばなりません。都会の未婚率の高さ、出生率の低さは、経済的な理由も大きいと思います。

福井の良さは他にも、水や空気の良い自然、地域の絆など、お金には換算できないものもたくさんあります。福井の子どもたちや若者には、こうした福井のメリット、デメリットを知った上で、将来住む所、生きる場所をしっかりと選んでほしいと思います。

問 福井へUターンした人の話を聞いたり、福井の暮らしやすさを都会と比較したデータで分かりやすく示したりするなど、福井の魅力を伝え、郷土愛を育てる教育に取り組んでいくべきと考えますが、知事の所見を伺います。

答 西川知事

ふるさと福井を作っていくためには、ふるさと福井を学び、愛し、誇りを持って、魅力を感じ、これをまた伝える子供たちを育てていくことが重要であります。小中学校では、いわゆる希望学ということを進めておりますが、教材として福井の希望などを活用して地域の産業について学び、また高等学校では様々な分野で活躍する本県出身、ゆかりの方をふるさと先生として様々な機会にお招きをし、福井の将来について、自分が果たすべき役割について考える授業を進めております。

今後はこれらの学習に加えまして、都市と福井の生活コストの収支バランスの比較、子育て、教育環境の良さを数値化した人生トータル設計書、そういうものをわかりやすく作って、ふるさと福井の暮らしやすさをより広く周知をするようにしてまいります。

次に、スポーツ選手のセカンドキャリアについて伺います。

プロアマを問わず、引退したスポーツ選手が引き続き、監督やコーチなどとしてスポーツ界で活躍できる人や、芸能界や会社を起業して活躍できる人はごくわずかです。就職先を見つけても、そこに生きがいを感じられず、第二の人生に苦労している選手も多くいます。プロボクシングはもちろん、その他の格闘技、それからJリーグ、プロ野球選手なども引退後に活躍できる人はほんの一部だと思います。

福井には、農業や漁業、林業、伝統工芸など人手不足に悩んでいる地域があります。そこで、人手不足に悩む農林水産業などの担い手として、就職先を探る引退後のスポーツ選手を紹介する仕組みはできないでしょうか。

農林水産業は、体力が必要な仕事であり、体力のある引退したスポーツ選手に適していると思えます。

農林水産業に就きながら、スポーツの経験を活かし、国体強化選手や子どもたちを指導するような仕組みができれば、Uターンの促進と競技力の向上の両方に役立つ取り組みとして、全国のスポーツ選手に注目されるのではないかと思います。学校の部活動に外部指導者として協力することにより、部活動の先生の負担軽減につながります。

引退したスポーツ選手にとっても、幸福度日本一の福井県となれるのではないのでしょうか。そして、元アスリートのコミュニティが出来れば、メディアにも注目されて更に新たな取り組みも期待できると思えます。

県では、園芸カレッジや水産カレッジなどにおいて、農林水産業の担い手の育成を進めています。

答 農林水産部長

現在、園芸カレッジなどでは県内を始め、東京・大阪での誘致セミナーの開催や、就農相談会や林業・漁業就業相談会への参加、新聞・雑誌・インターネットを使ったPR、こういったことを行い県内外から幅広く研修生を募集しているところでございます。ご提案がありましたら、現役を終えたスポーツ選手につきましても、これは農林漁業の後継者として、また他の分野での活動も期待できますので、プロアマ各種スポーツ団体を通じて今後、カレッジへの入校、さらにはその先の就業について働きかけてまいりたいと考えております。

福井国体に向け、有力選手の県内就職を支援する「スポジョブふくい」の活動が進められています。

問 さらに、福井県の競技力向上のため、引退したスポーツ選手に仕事や住まいを斡旋し、国体強化選手や学校の部活動の指導に当たってもらう仕組みを作ってはどうかと考えますが、所見を伺います。

答 教育委員会教育長

競技力向上については、まず、福井国体に向けて、有力な指導者と選手との育成・確保に努めており、全力でそうした選手強化に取り組んでいるところでございます。現在、若い選手たちが育ってきているところであり、そうした選手が福井国体、さらには東京オリンピックなど全

引退ボクサー 福井に JBCへ就農提案

ボクシング元世界王者の清 純が引退後、原動力となつた水産養殖。引退後、福井県に就農を提案する清水県議(右)と引退した後の水産養殖を営む福井県議(左)との対談。引退した後の水産養殖を営む福井県議(左)と引退した後の水産養殖を営む福井県議(右)との対談。



福井新聞(平成27年8月11日付)



日本ボクシングコミッション(JBC)・東日本ボクシング協会を訪問 本県のU・ターン政策や充実した就農支援制度をアピール (平成27年8月10日)

活動報告



中藤小学校で「総合」の授業 (平成27年7月16日)



第66回市民体育大会開会式出席 (平成27年6月13日)



日本自治創造学会研究大会視察(東京) (平成27年5月28日・29日)



大阪市城東区役所・中崎町視察 (平成27年5月25日)

皆さま、いつもあなたがご支援を頂き、誠にありがとうございます。

今後共、愛する故郷「福井」の為に、全身全霊で頑張りますので、今後も変わらぬご支援を頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。

尚、新着情報等は下記フェイスブックや本誌の活動報告等に掲載してまいります。ご意見やご要望は、下記までお気軽にご連絡下さい。

● FAX:0776-52-2021
● E-mail:tomonobu0628@movie.ocn.ne.jp

清水智信 facebook



ふくい高校生県議会出席 (平成27年8月24日)



北陸新幹線建設促進同盟会総会出席 (平成27年7月25日)



福井運動公園にて全国大会出場(陸上競技)の小学生を激励(平成27年7月25日)